

人を生かす経営の実践で 幸せの見える共生社会の実現を!!

～第20回障害者問題全国交流会in滋賀 504名の参加で学び合う～



▼多くの皆様のご協力が無事に障全交in滋賀を終了することができ、今は安堵の気持ちが大いなのが正直なところ。中同協行事として大会を成功させる重圧もありましたが、委員会として本大会を招致した目的は「県内会員に関心を持って頂く機会にしたい。」という思いであり、スタッフなど形は何であれ100名以上が大会に参加して頂き、全国の熱心な取り組みや人を生かす経営の根幹に触れて頂けたことが良かったと思っております。

▼先日、社会活動家の湯浅誠氏の講演を拝聴する機会があり、「平成は、人の多様性を認める時代であった。令和は、さて実際にどうつながるかを踏み出す時代だ。」と話されてきました。ユニバーサル委員会としても、全国大会の開催をきっかけとして今後の取り組みがより重要であり、大会宣言である『人を生かす経営で幸せの見える共生社会の実現』に向け、安堵はそこそこに再びエンジンを吹かして取り組みたいと思うところです。

▼最後になりましたが、公私お忙しい中を2日間も大会の設営にご協力を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

(小島)

真の共生社会の 実現をめざして



二日目の全体会では、2007年に放送されたNHKスペシャル「この子らを世の光に」の上映と、牧野望氏(株)NHKエデュケーショナル特集文化部長プロデューサー)と高橋信二氏(福ひかり福祉会理事長)によるトークセッションを通じて糸賀一雄氏の生涯をかけて取り組んだ障がい者福祉について学ぶことができました。

「この子ら」に「世の光」を「ではなく、「この子ら」を「世の光」にした糸賀氏らの考えから、経営者としてこれからどう障がい者雇用を進めていくか、障がい者

が生きやすい環境を作っていくかを考える機会となりました。

後半には中同協・障害者問題委員長である有限会社やんばるライフの比嘉あみ子氏にお越しいただき、株式会社ピライフの永井茂一氏とともに「真の共生社会の実現をめざして」をテーマに、パネルディスカッションをしていただきました。

やんばるライフでは今まで従業員の教育としてマニュアルを使用した座学を行ってきましたがなかなか身につかず苦労されたそうです。しかし障がい者雇用を始めると、従業員自身が障がい者の方の特徴に合わせて働きやすいように職場環境を整えたり、また障がい者の方がひたむきに働く姿に影響を受けてとても変わっていったそうです。ピライフの永井氏は障がい者を含め色々な過去を持った方を雇用しておられますが、働く側も見捨てられないという安心を持って働き続けられるように「命がけで雇用をしている」と想いを伝えておら

ご来賓の皆様

| | | |
|---|---|---|
|  滋賀労働局 局長代理 職業安定部 部長 伊藤 研一 様 |  津市長 越 直美 様 |  滋賀県知事 三日月 大造 様 |
|  (公財)糸賀一雄記念財団 次長 森本 富士男 様 |  (公)ひびこビジネスビューロー 専務理事 西川 直治 様 |  滋賀県教育委員会 教育長 福永 忠克 様 |

れます。地域の暮らしを守るために働く場所を作り出すことが経営者の使命として雇用に取り組んでおられます。

中小企業が「社あたり一人の障がい者を雇用すると、全国で280万人の雇用へと繋がります。その実現のためには同友会のネットワークが大切であり、自社に合わない場合にもその人の特性を生かした会社を紹介し合える環境があれば継続的な雇用となります。ともに協力し合い、支え合いながら雇用を進めていくことの重要性を学ぶ貴重な場となりました。

お礼と決意

第20回障害者問題全国交流会in滋賀
実行委員長 田井 勝実

第20回障害者問題全国交流会in滋賀は、皆さんのご支援を得て県内外から504名の参加登録を頂きました。帰り際に、多くの方から「2日間とも良かったですよ!」と声をかけて頂きました。ありがとうございました!交流会開催までの4年間、一歩勉強させて頂いたのは私です!今回のテーマ『人が輝くから企業が輝く、地域が輝く』は、『人が輝く』や『甲斐を持って仕事をしている状況』です。分科会では人間尊重経営で輝いている皆さんにご報告いただき、大きな共感を得ることができました。2日目は、糸賀一雄氏の足跡に学び『幸せの見える共生社会の実現』を誓い、交流会宣言を採択頂きました。『働き辛さを抱えた人の就労で、会社が輝いています!』なぜならば、『経営指針に基づく人間尊重の経営を実践しているからです!』と言い切れる経営者になるために、学び実践してまいります!

第20回 障害者問題全国交流会 in 滋賀

人が輝くから企業が輝く、地域が輝く!

とき 2019年10月17日(木)・18日(金) ところ 琵琶湖ホテル

10月17日(木)~18日(金)の二日間、「人が輝くから企業が輝く、地域が輝く!」をメインテーマに、第20回障害者問題全国交流会が琵琶湖ホテルで開催され、45同友会・中同協から504名が参加しました。本交流会は1983年に第1回を滋賀で開催し、今回第20回目の記念大会として交流会宣言「人を生かす経営の実践で幸せの見える共生社会の実現を!」を採択しました。



第1分科会 (北海道同友会)

共に学び 共に育つ職場づくり

報告者① 奥山 敏康氏 (㈱アイワード 代表取締役社長)
座長 田中 傳右衛門氏 (㈱和光 代表取締役社長)

今回の第1分科会を終え、障害者問題を全国交流会発足以前より障害者雇用をさされておられた先駆者的なお話の中から、障害者の方々の従業員として認め、健常者の方と何の隔りもなく働いて頂く為になどのような取り組みをされて来たのかをしっかりと受け止められる分科会でした。「何を基準として人を人として認めるのか?」を徹底的に話し合い、会社組織として「労使見解」に対しての深い気付きや学びが出来ている事が重要であること。人に対して働きやすい環境を整える事は、障害者だけでなく、他の皆にも働きやすい結果となり企業の成長の一つになる。障害の有る方も一人の人で有る中で、いかに人に焦点を向け、輝かしく仕事をして貰い、一人一人の目線をつけて行き、どれだけふさわしい課題を与え続けられる事が出来るかが大事かを学ぶ貴重な時間でした。



室長 太田宗男 (㈱プライウッドオウミ 代表取締役)

第4分科会 (滋賀同友会)

大丈夫、働けます!

報告者① 青山 裕史氏 (油藤商事㈱ 代表取締役社長)
報告者② 永岡 鉄平氏 (㈱フエスタート 代表取締役社長 (神奈川同友会))
コーディネーター 遠城 孝幸氏 (認定NPO法人 四つ葉のクローバー 代表権佐)

まず、コーディネーターの遠城氏より社会的養護、就労困難30大雇用についての説明があり、続いて神奈川同友会の永岡氏からは施設と企業を繋ぐコーディネーターとしての視点から、同友会企業の関わり的重要性を説明いただきました。最後に滋賀県での実践報告として、遠城氏からプロフェッショナルセミナー、企業体験パークについて、青山氏からは油藤商事における障害者雇用の取組みと同社の障害のある社員から生の声を聴きました。



障害のある方にとっては大変心理的負担があったと思いますが、とても感動的な報告でした。私は同友会の全国行事にはほとんど参加していませんが、全体的にこれほど意識の高い分科会は初めての経験でした。参加者の皆さんが、障害者雇用の可能性と必要性を再確認できた分科会だと確信しています。

室長 田中 真 (㈱サン機工 常務取締役)

第2分科会 (神奈川同友会)

ダイバーシティが生み出す宝物

報告者 川田 俊介氏 (㈱川田製作所 取締役副社長)
座長 田中 博士氏 (㈱まちぶく 代表取締役)

川田製作所さんは、車・パソコン・工場ロボット等で使う部品の金属プレス・金型製作をされています。2010年に入社した際、14人の社員の8割が55歳以上。海外への移管や一社依存率の高さでジェットコースターのような売上推移。次の時代のモノづくりを目指し、ITを徹底的に活用して高齢者・障害者・外国人女性・若者が活躍できるダイバーシティ経営を実践されていました。町工場はもつと地域に貢献できると考え、イベント出張・ワークショップや町工場観光ツアーなどにも取組まれました。残業無し・有給取得推進など、誰もが働きやすい企業風土を社員と共に築き、それぞれの苦手なことを理解し、本人の力で乗り越えられる環境を作る、得意なこととは得意な人に任せる。他を認め、自ら出来ることを最大限に発揮させることにより、人も会社も、とても輝いている川田製作所さんの報告でした。



室長 寺田俊介 (㈱ドリム 所長)

第5分科会 (栃木同友会)

多様な人々が輝くために

報告者① 古澤 正巳氏 (㈱鹿沼自動車教習所 代表取締役)
報告者② 福田 由美氏 (NPO法人CCV 理事長)
座長 斎藤 秀樹氏 (㈱ウズリアコンパス 代表取締役)

報告者の古澤氏、福田氏はともに栃木県鹿沼市に事業所があり、障全交のちようど直前に台風19号が直撃し鹿沼市でも大きな被害が生じたという大変な中、滋賀にお越しいただきました。古澤氏はお父様から自動車教習所の経営を引継がれたところ、地元の若者(お客候補)の減少という事実と直面し事業の将来性に危機感を感じられ悩まれていたところ、お金を払って免許取得をあきらめる方が毎年おられることに気づき、発達障害者の運転免許取得を支援する「つばさプラン」をはじめられました。プランの構築・運営支援に当たってはNPO法人CCVの福田氏などさまざまな方との幸運な出会いがあったと言います。社会的課題の解決を最優先に、利益を確保しながら持続可能な経営を行なっておられる好事例をお聞きすることができました。



室長 田中正志 (梅山㈱ 社員 税理士公認会計士)

第3分科会 (愛知同友会)

同友会の二丁目一番地はここにある

報告者① 杉浦 昭男氏 (真和建築 取締役会長)
報告者② 浅井 順一氏 (㈱浅井製作所 代表取締役)
コーディネーター 磯村裕子氏 (サン樹園 常務取締役)

愛知同友会で進められている「社一人関わる運動」について、真和建築の杉浦明男さんが成立の経緯や理念を熱く語られました。「社一人関わる運動」は、障害者との関わりをそれぞれの会社に応じた行いことの重要性を訴えています。また、障害者も、健常者と同じようにそれぞれの個性を持っています。その個性に合致した働き方が出来れば、もはや、障害者も健常者もおなじ働く仲間になります。このことは、中小企業家同友会での「人を生かす経営」の基本的な考え方に通じます。グループ討論は「中小企業家として障害者と関わることの意義」をテーマに行われ、参加者からは「障害の有無に関わらず、縁があり入社してくれた社員がイキイキと働ける場をつくるために、真正面から向き合ってお互いがわかり合える努力をする」と決意が寄せられました。



室長 小田柿喜嶋 (大洋産業㈱ 代表取締役)

見学分科会 (滋賀同友会)

障害者雇用なんてムリ! と思いついて入っているあなたへ

報告者① 永井 茂一氏 (㈱ピアライフ 代表取締役)
報告者② 大川 葵氏 (㈱ピアライフ 貸付事業部担当)
座長 坂田 徳一氏 (㈱坂田工務店 代表取締役)

見学分科会は、㈱ピアライフの本社ホール(大津市衣川)で行われました。琵琶湖ホテルからピアライフへの移動中、行きも帰りも、永井社長の報告があり、参加者はバスから琵琶湖風景を見る時間もありませんでした。聴覚障害のある大川さんの報告では、「これまでお世話になった人のためにも、同じ障害を持つ後輩のためにも頑張りたい等の発言があり、感動的な報告となりました。永井社長は、「経営」も「理念」も知らないまま社長となり、同友会で学んでいきましたが、当初は「障害者雇用は自分に関係ない」と思っていました。しかし、障害者問題全国交流会に参加し「従業員に対して、出来が悪い」と思ふを言う経営者の方こそでが悪い」と学び、その後は障害者を雇用し、「人を生かす経営」「四位一体」(障害者雇用、共同求人、社員共育、経営指針)の運動を実践していることの報告がありました。



室長 近藤公人 (滋賀第一法律事務所 弁護士)